

東京高等学校 平成29年度 一般入試問題の傾向

国語

1. 出題範囲

中学校国語教科書の全範囲にわたり、偏りのない出題を心掛けている。

2. 出題傾向

作題に際して、おおよそ前年までのパターンを踏襲するようにしている。ここ数年の基本パターンは、

①現代文（論理的文章）	小設問 15 題
②現代文（文学的文章）	小設問 15 題
③古文（部分口語訳あり）	小設問 10 題
④語句の知識（ことわざ・四字熟語等）	5 題
⑤口語文法（品詞・文の成分等）	5 題
⑥漢字（読み・書き）	10 題

以上 60 題という形式に落ち着いている。

なお、⑥の漢字以外はマークシートによる解答方式であるため、本文読解と選択肢読解の双方の能力が必要となる。

3. 出題量

前項に示した 60 題が定番化しているが、多少の増減の可能性もあるので、60 題程度と考えていただきたい。本文の長文化傾向、選択肢の難度の高さから読解力を身に付けることが望まれる。大問題番号①②現代文は、年によって「論理的文章」「文学的文章」の順が入れ替わる。前項に示した大問題番号④～⑥の知識の領域の問題から解く習慣を身に付けることが大切。次いで古文・現代文の順番で取り組むのが得策であろう。また、④～⑥の知識問題は出題全体の 1/3 を占め、かつ基本的な出題なので確実に得点できるよう勉強しておくことが大切。

4. その他

漢字の書き取りの採点では、トメ・ハネの厳密さよりも画数を満たしているか否かを見るので、その意識でしっかりと書く練習をしておくこと。また、現代文・古文それぞれの出典に関して文学史を出題することがある。

数学

1. 出題範囲

数と式・方程式・関数・図形・確率・統計など、中学校で既習のものから出題。教科書準拠問題集から、基本問題を中心に幅広く出題予定。

2. 出題の傾向

毎年出題様式は固定的である。マークシート方式であるので、答えの数値（－符号も含む）をマークする形式がほとんどである（選択問題は稀）。

問題数は問題の難易度によって変わるが、25題～30題である。

図形問題に思考力を試すものもあるが、計算問題を中心に出题しており、基本的な計算力がしっかり身に付いていれば解けるものがほとんどである。

独立小問題は全範囲にわたり 12 題～15 題程度の出題。

大問題は関数（1 次関数、関数 $y = ax^2$ 、グラフ）と、図形を中心に、数問出題する。

3. 注意点

教科書を中心に、幅広く理解し、基本的な知識と計算力を身に付けておいてもらいたい。

大問題は、各問の計算や答えを順次活用する問題も多いので、マークシート方式ではあるが、記述試験のように、計算用紙に解答を整理して書けるようにしておくことが望ましい。

マークミスによる失点のないように、マークシートの記入の仕方も、過去問題を利用してよく練習して慣れておくといわれる。

英語

1. 出題範囲

単語・熟語・文法事項など中学校で既習のものから出題する。

教科書レベルなので、まずは、基本をしっかりと身に付けておくこと。

2. 出題傾向

大問としては例年 4 題程度。

内訳はリスニング、長文、会話文、英作文など。

* リスニングはネイティブ・スピーカーによる英語の文章や対話文を聴き、英語の質問に対する正しい答えを選ぶ形式で 5 問程度。全体で約 8 分ほどで、内容もそれほど難しくはない。

* 長文は、物語文で全体として平易な英語で書かれているが、量としては少ないほうではない。内容把握問題を中心に、空所補充問題、文章整序問題等を出題。

* 文法に関しては、長文の中で問う形式になっている。

* 英作文は、条件付、絵を見ての自由創作が中心となっている。

3. 注意点

例年問題数は、50 問前後である。そのうち英文和訳（完全・部分）及び和文英訳（全 5 問）を除いて、マークシートによる解答形式である。